

# 第8回 無形文化遺産理解セミナー

**日時** 平成26年6月28日(土)  
14:00~15:30

**会場** 堺市博物館 ホール

**参加** 無料

★申込方法は裏面へ

※本セミナーでは、文楽の公演はありません。

※展示場内を観覧する場合は観覧料が必要となります。

## 東京文化財研究所について

国立文化財機構に属する調査研究機関で、東京都台東区の上野公園内にあります。

国の文化財行政を支える立場から、多様な文化財の全般にわたり、基礎的・体系的・先端的、そして実践的な調査研究を進めるとともに、その成果の積極的な発信、地方公共団体等への指導・助言、さらには、文化財の保存・修復に関する国際協力等の国際貢献事業を実施しています。

# 人形浄瑠璃文楽の魅力

—より深く理解し、楽しむために—

◆講師

飯島

満

東京文化財研究所

無形文化遺産部長



主催 堺市

© 国立文楽劇場

## 今回のセミナーについて

人形浄瑠璃文楽は日本を代表する伝統芸能の一つで、ユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されています。ところが、多くの日本人にとっては、必ずしも身近な存在ではありません。初めて実際の舞台に接したとき、人形の動きに目を奪われる一方で、見終わる頃には「難しいもの」との感想を持った人は少なくないのではないのでしょうか。

文楽から受ける感銘の度合いは、どこまで物語（戯曲）の内容がつかめたかに左右されます。文楽では、義太夫節浄瑠璃によって物語（戯曲）が観客に伝えられます。残念なことです。そもそも伝統的な日本音楽（純邦楽）のジャンル自体が、現代社会においては身近な存在ではなくなっています。三味線音楽である義太夫節浄瑠璃も同様です。文楽を「難しいもの」と感じるのだとしたら、その最大の要因は、文楽の音楽（義太夫節浄瑠璃）に対するある種の距離感にあるのではないのでしょうか。

文楽の音楽（義太夫節浄瑠璃）を切り口にして、文楽がどのような芸能であるのかについての理解を深めると同時に、文楽が直面している厳しい現状について、考えてみたいと思います。

### ■お申し込み方法

- ◎FAX、電子メール又は電話でお申し込みください。
- ◎FAX、電子メールの場合、参加希望者全員の必要事項（住所、氏名（ふりがな）、電話・FAX番号）を明記の上、**堺市博物館 無形セミナー係**へ。

### ■定員

100名

- ◎応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。
- ◎ご応募いただきました全員の皆さまに参加の可否をご連絡いたします。

### ■締切

平成26年6月22日（日）必着

### ■交通案内

- ◎JR阪和線・関西空港線「百舌鳥」駅下車 徒歩6分
- ◎南海バス「堺市博物館前」下車 徒歩4分
- ※車の方は、大仙公園駐車場（有料）をご利用ください。

### =展示のご案内=

#### ■企画展

ぬき なすう おう

貫名菘翁の優品

6月21日（土）～9月15日（月・祝）

#### ■スポット展示

古文書をよみとく

—文字とカタチから—

6月3日（火）～7月6日（日）



堺市博物館公式キャラクター  
サカイトケルくん  
©YABUUCHI Satoshi



# 堺市博物館

SAKAI CITY MUSEUM

〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内  
TEL.072 (245) 6201 FAX.072 (245) 6263  
E-mail hakugaku@city.sakai.lg.jp  
URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan>

ハロー・ミュージアム：TEL.072 (244) 9898 (博物館の展覧会などを24時間ご案内)